

助成事業実施報告書

団体名 森の学校実行委員会

代表者・役職名 氏名 十場比路子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

森と育てる子ども食堂

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

毎週月水曜日に子どもの居場所である『森の学校つくも』を開校しています。月水は不登校の子どもたちや他の日は学校に行っていて週に 1.2 回通ってくる子どもたちが参加しています。月 水が代休、祝日の場合は普段学校に通っていて自然を味わいたい子どもたち、親子連れも受け入れています。開校日にはお昼ごはん時とおやつ時に子ども食堂を開設しており、敷地内で育てた収穫物を中心に調理しています。調理は火を起こすところから始め、皆で協力して協調性を学ぶ場にもなっています。田畑を耕し、種、苗を植え水をやり、雑草を抜き、猪から作物を守り、と大変手のかかる作業が続きますが収穫できた時の喜びは何事にも変え難いものです。場所は森林、耕作放棄地のため、開拓、草刈り、田畑整備などに大人の手も多く必要です。代表始め多くの高齢者スタッフも活躍できる場になっており、恒久的に全世代交流及び育成の場にしていきたいと考えています。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

2024年4月から2025年3月まで全101回開催

参加者数 子ども699名 大人936名 合計 1635 名

森と育てる子ども食堂ではその名の通り森で育てた収穫物を中心に子どもたちと調理をしています。一年半前に菌打ちをしたしいたけも大きく育ってきて毎回今日はできてるかな、お味噌汁のいいだしがとれるからねーなどといいながら収穫に向かいます。子どもたちは皆包丁を使うのが大好きでとても上手です。真冬も冷たい水でお米や野菜を洗い用意しています。雨の日は火を起こすのが大変ですが頑張ってお越し飯盒炊爨をします。あきらめずうちわであおぐ姿が頼もしいです。男女関係なく皆で調理をして出来上がったものを美味しくいただく時間は至福の時となっています。小麦やタカキビを育て粉にしてクッキーも作ります。日々成長する子どもたちの様子を見ながら活動できスタッフも楽しい時間を過ごしています。ボランティアスタッフは後期高齢者も多くいますが子どもたちと関わり社会貢献ができるということで生きる活力になっていると言っていたり、一人暮らしの高齢者にとっては子どもたちとおしゃべりしたり一緒に手芸をしたりすることで子どもたちからパワーをもらえる、と喜んでいただいています。皆で鶏肉をしめた日は命の大切さ、食べ物をいただける有り難さを感じられる体験として保護者の皆様にも好評でした。今後も活動を継続して参りますので見守っていただけると幸いです。この度助成金をいただき大変感謝しております。ありがとうございました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

年間を通して毎週月水曜日にフリースクール森の学校つくもを運営しています。不登校の子どもたちは地域の学校で給食をいただいているため子ども食堂を同時に開催しています。10年以上放置されていた森林、耕作放棄地を開拓して子どもの居場所作り、子ども食堂の運営をしているため人手が多く必要です。開拓開始から5年近くたち田んぼ、畑もだいぶ整備され、大豆、米、野菜の収穫、味噌作りなどもできるようになりました。今年度は田んぼの面積が増え、子どもたちと田植え、稲刈りを致しました。年末年始には育てた黒米、餅米で餅つきもしています。2023年度不登校の小中学生の数がおよそ34万人と発表されました。小中学生全体の3%

以上になります。前年度より5万人も増加、との統計も出ています。国、自治体の方針として不登校の子どもたちを学校に戻すことが目標ではなく、自立して社会にでて行くことを目指す必要があること、という項目があります。当団体は兵庫県教育委員会のガイドラインにも掲載されたフリースクールであり子どもたちが安心して過ごせる居場所、子ども食堂を目指して活動中です。活動継続のためにはスタッフの数が多く必要です。ボランティアで志を持って活動しておりますが人件費がいただけるとスタッフのモチベーションが上がります。その一部をご支援いただき本当にありがとうございます。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

